

御楨小学校だより

校訓 みがく まなぶ きたえる

教育目標 確かな学力と豊かな心をもち、地域を愛するたくましい児童の育成

1月号

令和8年1月21日



新しい年が明け、2026年、丙午（ひのえうま）の年が幕を開けました。皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。力強く大地を駆け、未来へ向かって躍動する「午」のように、子供たち一人一人が、自らの可能性を信じて力強く飛躍できる一年となりますよう、心から願っております。さて、3学期の3か月間は「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」とよく言われます。残51日（6年生=50日）の登校で子供たちは、一つ上の新しい学年、中学校へ進みます。今の時期は、『まだ』と『もう』の二つの考え方をもって過ごしてほしいと思います。一つは、まだ51日もあるのだから、今までできなかったことにもう一度チャレンジすることです。そしてもう一つは、もう50日しかないのだから、1日も無駄にせず今まで積み重ねてきたことを、最後までやり遂げることです。どちらも『我慢』と『努力』が必要なことは変わりません。この『まだ』と『もう』の二つの考え方は、節目の時、締めくくりの時期には特に重要です。3月末の卒業式、修了式まで、みんなで励まし合って頑張り、そして誰もが胸を張って新年度を歩み始めてほしいと思います。一日一日を大切に過ごしましょう。



2月の行事予定



日	曜日	行 事 等	日	曜日	行 事 等
2	月	ジブンミカタプログラム（5・6年）	17	火	J T E 来校 学校運営協議会
3	火	J T E 来校	18	水	読書まつり クラブ活動
4	水	新入児体験入学 給食試食会 委員会活動	19	木	A L T 来校
5	木	体重測定 A L T 来校	20	金	安全点検 伊達っ子俳句 北フジ展示～24日
6	金	漢字検定	23	月	● 天皇誕生日
9	月	S C 久保先生来校	24	火	J T E 来校
11	水	● 建国記念の日	26	木	卒業写真撮影 避難訓練（不審者）
13	金	プレジョブチャレ「夢わく work フェスタ」（5・6年）	27	金	老人クラブとの交流会 (みまきっさ)

12/24 注連飾り作り 老人クラブの皆さんに優しく教えていただきました！



老人クラブとの交流会で、注連飾り作りに挑戦しました。子供たちは、なかなかうまくいかず、老人クラブの方の力を借りて、どうにか完成させることができました。注連飾りは、1年の幸福を運んでくる年神様を迎える神聖で清浄な場所であることを示し、玄関に飾ることで、悪いもの（厄災）を家に寄せ付けず、祓う結界としての意味を持つそうです。材料等たくさん準備してくださり、優しく丁寧に教えてくださったおかげで、全員素敵なしめ飾りを作ることができました。老人クラブの皆様、公民館の皆様、ありがとうございました。





12/24 もちつき大会 つきたてのお餅はおいしい！！

今年度から始めた稲作づくりの一環としてもちつき大会を行いました。もちつき大会に向けては、保護者の方を中心に計画をしていただきました。前日のもち米洗い、当日の火起こし、湯沸かし、臼や杵など多くの道具の準備や片付けには、地域の皆様、保護者の皆様が御協力くださいました。多くの皆様のおかげで、楽しいもちつき大会になったこと、心より感謝申し上げます。日本の伝統行事にふれ、子供たちも喜んでいました。つきたてのお餅やぜんざいをほおばりました！



1/16 薬物乱用防止教室 自分の身を守る！ダメ、ゼッタイ！

5・6年生を対象に、宇和島市立病院 学校薬剤師の山村健瑠さんをお招きし、薬物乱用防止教室を行いました。「まさか薬物なんて」ではなく、風邪薬も医師の指示や容量用途などを守らず使うことも薬物乱用につながることも学びました。薬物だけでなく子供たちを取り巻く環境には様々な危険があります。軽い気持ちで取り返しのつかないことになることの恐ろしさについて御家庭でも話し合ってみてください。



1/20 校内マラソン大会！全力を出し切りました！



11月から始まった駅伝・マラソン練習。みんなよく頑張りました！地域の方の声援、保護者の皆様のお手伝いと応援、ありがとうございました。子供たちの頑張りを見ていて「走姿顯心」という言葉を思い出しました。この言葉には、走る姿勢がその人の心を映し出すという意味が込められています。全校児童の一生懸命さが、頑張った積み重ねが走る姿勢に出していました！



日野のつぶやき！ 箱根駅伝を見ていると…「個の力」と「集団の絆」



10人が襷をつなぎ217.1kmを走り切る箱根駅伝は、毎年多くのドラマが生まれます。青山学院大学陸上競技部を率いる原晋さんは14年前の2007年に監督に就任しました。青山学院大学は今年も優勝しました。しかし、原監督が監督に就任した当時は30年以上駅伝の予選会を突破できずにいました。そこで、原監督が最初に取りかかったことは部員に「規則正しい生活」をさせることだったそうです。基本的な生活が土台にあればこそ走る技術や能力を高めることができるというのです。また、選手の育成法にも信念があり、「陸上競技の場合、1番がいれば50番がいます。50番の選手が50番のままでも、自己ベストを出せば必ず褒めます。そして、どう努力すれば次の結果につながるかと一緒に考え、ヒントを与えていく」と語っています。原監督の「全ての選手の可能性を認めながら伸ばしている。」を心に留め、子供たちの可能性を伸ばしていきたいと思います。

選手の走る姿から感じるのは、「個の力」と「集団の絆」が響き合う素晴らしいです。一人一人が自分の区間でベストを尽くす姿は尊いものです。同時にその華やかな舞台の裏側には、雨の日も風の日も黙々と走り続けた「目に見えない努力」の積み重ねがあるはずです。成長とは、ある日突然訪れる魔法ではありません。日々の小さな「一歩」を積み重ねた先にのみ、見える景色があるのです。同様に心を打つのは、前の走者の想いを受け取り、次へ繋ごうとする献身的な姿です。選手たちは、苦しい時に襷を見て「みんなが待っている」と思い出し、もう一度踏ん張ると言います。切磋琢磨する友、支えてくれる先生や家族がいることで、一人の限界を超えて想像以上の力を発揮できているように思います。引き続き、自分に合ったペースや方法で「個」を磨き、仲間と共に高め合う「集団」の力を大切にしながら、子供たちの未来を切り拓きたいと思っています。